

アセアン・南アジア地域経済研究

担当者 坂田 幹男

開講時期 前期

単 位 2

●講義の概要

ASEANが発足した1967年から今日までの発展の歴史を概観し、ASEANが目指している「ASEAN経済共同体」の現状について検討する。併せて、ASEANが地域統合を進めるうえで障害となっている、「ASEAN Wayのジレンマ」と呼ばれる内容や、「ASEANディバイド」（二層構造）などの問題について考察する。最後に、南アジア最大のインド経済について概観し、日本とインドとの経済協力の現状などについて考察する。

●講義の到達目標

ASEAN発足から今日までの発展の流れを概略的に把握すること、およびASEANが目指している方向と現在抱えている課題について理解すること、南アジアと日本の関係について理解することを目指す。

●講義計画

- 第1回：ASEANの発足と変容
- 第2回：ASEANの拡大とAFTAへの道
- 第3回：ASEANの市場統合の現状
- 第4回：ASEANの二層構造について
- 第5回：ASEAN Wayのジレンマとは何か
- 第6回：「大メコン圏開発」と「三大経済回廊」
- 第7回：新興メコン諸国の現状と展望
- 第8回：小国モデルとしてのラオスのNAIC型工業化の可能性について
- 第9回：RCEP（東アジア地域包括的経済連携）の現状と展望について
- 第10回：台頭するインド経済を見る眼
- 第11回：インドの「新経済政策」と新興市場としての台頭
- 第12回：インド経済の課題について
- 第13回：日印経済連携協定について
- 第14回：「自由で開かれたインド・太平洋」構想について
- 第15回：まとめ

●成績評価基準と方法

学期末に提出してもらったレポートにより最終判定する。
途中で学習到達状況を把握するためのディスカッションを行う。

●テキスト又は参考文献

テキストは使用せず、講義資料を配布します。

参考文献

坂田幹男・内山怜和『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房、2016年。

●受講上の留意点

ASEANに関心があるだけでなく、東アジア全域での経済協力などに関心があることが望ましい。